京城新聞

忠州旅行記（完）

三十日忠州　瀾　楓

此所で馬に糧を飼ふやら飯を食うやらする其の家の穢ない事は話しにならぬ程で、飯と云はず鍋と云はず蠅ばかりである、馬屋と炊事場とは何等の隔てもない一棟の内である、馬の蠅も其の臭氣も物の腐敗した臭ひも一所に生温るき風と共に面に當る堪つたものじやない、何の此れしきの事と心で心を叱つて見るが何の効もない、穢ないもの何と云ふことも[illegible]とは堪かれぬ、此んな時は餘り好まぬけれど持合せのブランデーでもやつたらと取出してブランデーのコップに半分ついで飲んだ、此れも効がない、汗は冷汗となつて流るゝ馬子は容易に出發しやうともせぬ、二三時間もした頃漸く仕度はかゝつた、近路しやうと云ふ、護衛を離れては危險じやないかと云へば、危險じやない、命は私も惜しいから危險な處は通らぬと云ふ、其所で間路を通る事にした太陽は腦天から炎り付ける、草の葉も卷かる程の暑さである、渇を催して來るが飲む水がないので瓜を買ひにやる、馬の上でガジ／＼嚙つて行く、馬子が妙な面付きして眺める、多分僕の面が面白いのであらう、漸く本道に出て、護衛兵の來るのを待つて居る、容易に來ぬ、馬子は韓酒を飲み始める、馬は道草を食ひ始める、ぐずかすると馬は畑の作物を無遠慮に荒す、馬子は驚いて曳きに行く、亡國の調を歌ふて通つて行く、待つ事二時間許りでやつと護衛兵は來た、之れから道路は極めて平坦で危險の度も少ないと云ふ、暑さは暑し見るべき山河も其の千遍一律なのに飽いて、今や馬上ながら華胥に遊ぶと云ふ有樣である、幾度か睡り落んとしたが其の都度運の者に叱られるやら威されるやらして甚だしき失敗は演しなかつたが確かに馬上の居睡等は呑氣なものである、此れも數日來心配した結果に外ならぬのである道の七里も來た時に金山と云ふ山が見へる馬子は彼れには古い奇談があると云ふ、どんな事かと云へば、昔彼の山には毎日黄金の牛が顯はれて草を食ふて居たと云ふ事である、其れで其の山は金が出るが堀れば幾らでもあるけれど、どうゆうものか祟があると云ふので充分に掘れぬと云ふ、此んな談は必ずしも韓國許りではない、日本にも隨分ある話だ、昔の人達は此んな馬鹿談しも眞實として後世に傳へて來たかと思ふと噴出したくなるが、其んな話を好く考へると必ずしも笑はれぬ事がある其れは所謂大乘と小乘の差である、唯云ひ方談方で違ふ丈けの事である、人を見て法を説くと云ふのも之れじやと獨り頷れる、

漸く日の暮れに漢江の上流たる忠州に着いた、其の河を見た時は此の水か漢江となるのかと何となく懐つかしい感じがした、北門外の某所に馬を駐めて、僕の友人を訪ふて居た四五人で食卓を圍んで盛にパク付いて居る、僕はツト入つて久濶を述べても其の人は餘り異樣な服裝に僕とは見定めが付かぬらしい其れで名刺を出すと手に取るや驚いたやうに、ヤア君でしたか、君は昨日着くかと思つて待つて居たのじや、君が來る事は早くから通知があつた、隨分途中は困つたらう、等と片々な話が始まる其の内に洗足して座に付く、先づ久し振だ實聞しやうじやないか、湯もなし食物もなしと云ふ有樣だから此れから忠北館へ[illegible]催さるゝまゝに遠慮もなく隨いて行つた、忠州は實に淋しいもので、城壁は崩壞し空家と農家とが不規則に列んで居る、唯心持からして淋しいやうにある能くも此んな處に[illegible]日本人[illegible]のは中々豪いものじやと思ふて忠北館でふ料理屋兼宿屋に入つた、湯もあると云ふから其れじやと飛び込んだ室に入れば酒肴は持出されてある庭は廣く噴水等もある築山もある、軒には球燈も燈してある、中々振つてる、酒杯漸く廻るに從つて忠州暴徒襲撃當時の模樣や、忠州前途望なきの地位や經濟上の悲事等が語出される、聞けば聞く程忠州と云ふ處は貧窮した處である、

名月や狐飛び行く古墟の陰

●斬髮の始

浮世さき

當時の散髮料は二十五錢なりしも中には其の上に元服の祝儀として一圓二圓を投げ出すもの多く二階床の收入は驚くべきものありたり、然るに其の頃本町に髮結床庄司辰五郎といふもの有り二階床の五郎吉を利にて誘ひ自分方に雇ひ入れしかば二階床忽ちさびれて庄司床の繁昌となり其の向ふに店を持ち居たる川名浪吉ざへ其の影響を蒙るに至りぬ、此の川名は中々の才物なりしかば五郎吉の月給を增し九圓にて雇ひ入るゝことにし五郎吉を奪ひたれば川名の店は又旭日の如く隆盛を呈し又當時正面に姿見の大鏡を備へ付けたるは二階床についで川名の店なりしが廻り椅子を備へ卒先して西洋剪刀を用ゆ室内の粧飾等は之を外人に質して其の風を移し勉めて西洋風の輸入に勉めたりしかば終に此の社會に獨り其名をば恣にし後日府下十五區八郡の理髮取締の位置を占むるに至れりサテ東京市中にて散髮姿の增したる割合は明治八年頃は散髮二分五厘十年頃は六分十四年頃は八分十六年頃は九分二十一二年頃は全く散髮のみとなれりとか市内の髮結が五郎吉の工合を見て始めて散髮を行ひたりし頃剃は剃りても虎斑にて見られぬやうの頭をなし更に櫛につきつゝ剃刀にて擲はぬ髮を剃り落し甚だしきは剪刀を持つに不案内なれば剃刀もて髮を刎り擲はぬ所は火にて燒き切るなどの奇談もありしなり

俳句

白露集

鍵おろす通用門や女郎花　田　桃

讀む聲を聞か金魚の目を据て　松　花

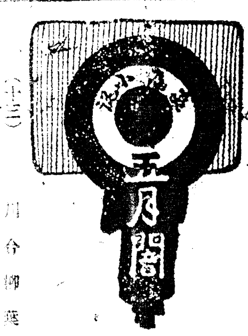
雨落に浮きつ流れつ金魚かな　可　碎

蚊のさして眠る間もなき夜明哉　松　花

酒手なきふて寐を痛くさす蚊哉　田　柿

孝行をさす蚊のにくし夏の夜　松　花

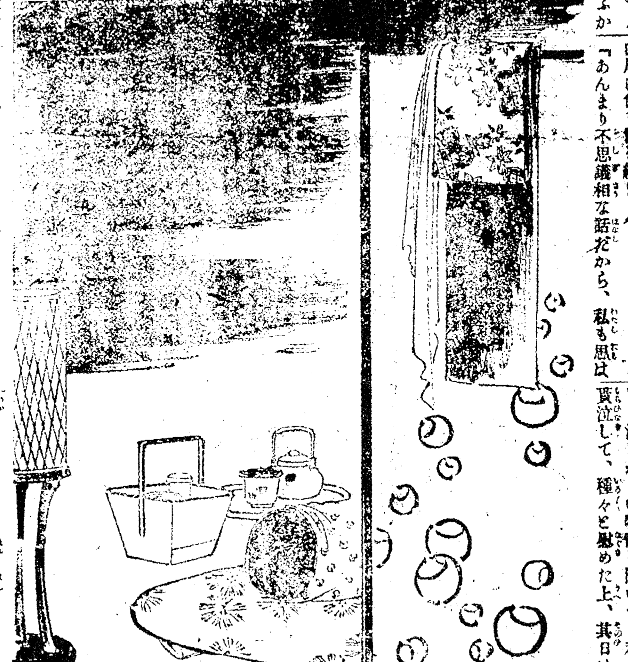
何事ぞ眠りさますや蚊の無情　三　露



（十三）　川分御藥

山川は何も辭を續ぎ、

『あんまり不思議相な話だから、私も思はす一膝乘出して聞いて居ると、れ父さんは涙の目を拭ひながら、早速上京して先づこれまで泊つて居た下宿屋へ驅付けて聞き合せて見ると、何でも神田の猿樂町の何とか云ふ下宿へ、故國の人が居るから其處へ轉ると云つて、十二月の末に出たと恁う云ひまして其の起した先の名前も分らんと云ふ始末、そこで今度は閨秀女學校に往つて聞き合せて見ると、なる程十二月までは確かに學校に入つて居たに違ひないが、春になつてからは一日も學校へ出ないと云ふれ話し、いよ／＼探る手懸が無くなつたものだから、止むを得ず警察へ搜索願を出して色々と調べて貰つたけれども、何處に何う隱れたものだか、生きてるか死んでるか、全然行衛が分らないので、到頭二週間ばかり搜した揚句の果が、泣きの涙で歸りましたが、今日が日まで手紙一本寄來さん所を見るともう現世に居ないものだと斷念めては居りますが、女房には先立たれる、唯た一人の娘には棄てられる、老先短くなつて何の樂みもないから、近頃では恁うして風流三昧に日を送つて、なるたけ娘の事を忘れるやうにと思つて居りますが、親ほど馬鹿なものは御座いません、親を見棄てるやうな娘でも、生きて居るか、それとも他人に殺されたではあるまいかと、雨につけ風につけ思ひ出さぬ日とてはございません、殊に東京の人と聞きますれば、何となく懐しくツて、ヒヨツと娘の行衛が分る便になりはせんかと、老人の愚痴ッぽく、先生も東京と聞きましたゆゑ、愚痴話が聞いて頂きたさに、態々御足勞を願つたと云ふ理由、若しや然う云ふ名の女が、身投げでも爲たと云ふ噂をれ聞きなすつた事でもありましたら遠慮なく[illegible]なすつて下さいましと、涙ながらの物語を聞いて、私も思はず貰泣して、種々と慰めた上、其日はそれで別れたが、それが緣の端となつて、後には到頭厄介になつて、彼是二月ばかり逗留して、毎日茶を噺むだり、酒を飲むだりしながら俳句を詠んで遊んで居たが、其時れ父さんの言はれるには、不束な娘でも無事に居て呉れるなら、是非貴方に貰ひ申して僅かばかりの財產でも相續して頂けば、こんな嬉しい事はありませんが、兎に角も肝腎の娘が居りませんから致方がありませんと、大層氣に入られて我子のやうに可愛がられたが、是非この京都に來たいと思つて出掛けたことだから、れ父さんとは涙ながらに別れを告げて、彼是三ヶ月目に靜岡を立つて京都に來たが、斗ずも笹野の娘のれ仕江さんに廻り合つて、それとも知らずに夫婦になると云ふのは、まるで芝居か小說にでもありさうな、不思議な事ぢやあるまいか。』



聞けば聞くほど不思議な山川の物語に、れ君は呼吸を吐かずに聞いて居つたが、

『本當に不思議な事もあるもんですね、しかし今更云つても返りませんが、私は餘程不孝ものね、そんな話を聞かされると、いくら不孝者の私でも、親の事を思ひ出して可厭な心地になつて來ますわ。』

流行病の豫防

古來疫癘の猖獗は戰爭の禍よりも懼るべしとなす、實に然り戰時に於て實際砲丸に倒れて死するものよりも、病の爲に死するものゝ比較的多きは人の能く知る所なり、之を以て各國共に軍事衛生に專ら意を注ぎ其設備の完全を期せらるゝも病魔の多きを憾とせり、然れども衛生事務の完備せるに從て流行病の猖獗を遏制するに至れるは文明國と野蠻國との比較によりて明なり、衛生設備の完全せざるとを以て其國文野の程度をトするに足ると云ふも過言にあらずや衛生事業は人類生存上に於ける一大要務なり[illegible]んや、毎年氣候の變遷するときは傳染病の發生する處あり、殊に秋の初に於ては赤痢虎列拉の如き激烈なる傳染病發生して幾多の人命を損す、其病毒の猖獗なるべきは實に說くまでもなし、[illegible]虎列剌及赤痢は漢城を襲ひ、其病勢猛烈爲に漢城の人をして震慄せしめたりき、之が爲に我 東宮殿下の御渡韓を見合せらるべしと迄評定せられたりと聞及びぬ、茲に於てか帝國の官憲大に覺醒する處ありて、駐剳軍と協定して傳染病撲滅の方法を講じ、岡崎憲兵隊長を以て委員長となし、軍隊の力によりて猛然之が豫防及撲滅の方法を採るに至れり、規律の整々たる軍隊によりて消潔法は行はれたりき、不潔極る韓人街路に鼻を掩はざれは通行の出來ざる小路まで淸掃せらるゝに至れり、此の結果猛威の爲に流石猛烈なる傳染病も漸次衰滅するに至りたりき本年は幸に未だ傳染病の發生少く、人々安堵し居るも決して油斷すべからず、淸國各地には虎列剌病發生し、南淸の如きは最も熾烈にして、厦門附近にては日々百名以上の死亡者ありと云ふ、病勢は我臺南附近に迄侵襲し來れりとの事なり、地の遠隔せるを以て安んず可らず、宜しく今に於て衛生に注意し其防備に力を盡さゞる可らず、昨秋の如く既に病勢の猖獗を極むるに及で愴惶其事に從ふが如きは決して讃む可き事に非ず、未だ發生せざるに先だつて豫防せざる可らず、之れ則ち衛生の本義なり、余輩は南淸の猛烈なる病勢を聞きて對岸の火災視する能はざるなり、昨秋大消潔法の行はれし當時は韓人街も面目を革めたる觀ありしも漸次舊に復し今は亦不潔云ふ可らず、衛生事務は日韓共通に依りて行はれ居ると聞くも、元來韓人には衛生思想乏しく爲に個人として注意する所なし、當局者は此際特に韓人街の淸潔法を行ふと共に大に衛生上に注意を拂ひて、傳染病の發生せざる樣專ら豫防に盡瘁して、其發生するに及び悔るなからんことを希望するなり、

●漢城便り

▲韓國の政治は五百年來漢城城内に限られ居申候我保護政治開けて茲に三年而かも今日迄の處實際に於ては城壁外に何等及ぼしたる所無之候漢城を去つて韓國に政治なく漢城を去つて韓國無之候

▲單り韓人側のみに非ず邦人側に於ても京城の地を離れては政治無く又政治家無之候論より證據民長官撰問題を政治的に解釋し亦[illegible]辭職を遂げて多少政治家的行動を採りたる者は全韓中京城議員の外無之を見ても慥かに相分り申候

▲南韓の暴徒が屏息したるは討伐隊通過の際の一時にして此頃は跋扈跳梁亦々不穩[illegible]候得共飯上の蠅は追べきものにわらずして撲殺すべきものと存候

▲南韓に於ける暴徒以外の問題は葉錢と鐵道とに有之候南韓は由來半島の寶庫と稱せらるゝ所されど葉錢、鐵道の二問題にして解決せざれば到底此上の發達は見込無之候

▲目下度支部の葉錢公換相場は新貨に對し二十割に有之候而るに市場の相場は二十二割に有之候韓人如何に愚なりと雖二錢以上の物を二錢にては手放し不申候

▲南韓鐵道は測量已に濟み居候にも不拘敷設には何時着手致候やは明ならず候鄙見を以てすれば湖南鐵道會社は資金を有せず韓國政府は準禁治產者として積極的の施設に手を出すこと思も寄らず茲に於て東洋拓殖をして本鐵道敷設の任に當らしむる事尤も捷徑にして亦當を得たる者と存候

▲第一銀行の一圓新券は新義州及び南韓方面に於て流通思わしからずとの事に有之候殊に南韓に於ては新券は何かのレッテルに酷似せりとて韓人等の排斥を受け候との事に有之候第一銀行券の流通高は新券引換の爲に僅かに幾分か減少致候

東京電報

▲森林條約調印 鴨綠江森林條約は此の程日淸兩國委員間に調印終了し本月廿七日より該會社を開設する事に決定せり(十日發)

▲瓦斯供給期 日韓瓦斯會社は二十六日當地に創立總會を開き成立手續終了の上京城に於て工場の新築に着手し來年三四月頃迄に一部を竣工せしめ瓦斯の供給を開始する豫定なり

▲土地所有者の運動 東洋拓殖會社創立につき韓國に土地を有するもの其の買上を請ふ爲め上京運動中のもの多し

▲東拓委員着京期 韓國側の東洋拓殖會社創立委員は[illegible]着京の報あり(以上十一日發)

地方電報

▲村田明石兩將軍 北韓視察中なる村田、明石兩少將の一行は十日元山に着せられ十一日滯在十二日騎馬にて出發陸路歸京せらるべし尚騎馬行程は約十日間の豫定なりと云ふ(十日元山發)

▲安東新報發行停止 安東新報は九日の紙上に掲載せし記事の爲め七日間發行停止を命ぜられたり(十一日發安東縣發)

雜報

●一昨日の德壽宮 既報の如く一昨日德壽宮に於て太皇帝の萬壽節御祝ひの御宴あり各皇族宮内官其の他[illegible]内府次官多田宮内府秘書官婦人にては鈴木典醫夫人渡邊翻譯官夫人等なりき

●統監の執務 伊藤統監の赴く所には必ず統監府出張所を設け其事務を執る例なりしが去二日統監の興津に來りしは三日許り滯在の豫定にて書類其他も持參せず古谷秘書官等數名を從へしのみなりしが爾來侯の病氣捗々しからず滯在長引くにより一昨日より旅館に於て統監府の事務を執ることゝなり統監は毎日午前七時より七時半の間に起床旅館なる川崎別邸内を散歩し食後古谷秘書官の提出せる書類を檢閲し之に命令を下し又電報を發せしめたる後來客に接し午後は井上邸に至り夕刻歸邸し食後再び古谷秘書官の差出す書類を閲讀し平日は午前一時頃寢に就く例なるが昨今は十一時頃床に入る由

●松井局長の皇宮警察視察 松井警務局長は昨日午後具警視副總監と共に皇宮警察執務の狀況を視察せり

●衛生事務講習開始 内部警務局に於て衛生事務講習會を開催することは既報の如くなるが同講習會は元廣濟院跡を以て會場とし昨日より開會し松井局長、藤田軍醫部長等列席せり

●京城記者俱樂部臨時總會 京城記者俱樂部は來る十三日(日曜日)午前十時より臨時總會を開く由

●撫順炭無運賃 民長問題交換の一か 過日下仁せる曾禰副統監が某實業家と談話中統監府は韓國鐵道其他に他人の使用に充つべき撫順炭を無運賃にて最も低廉に供給する目的にて大連仁川間の航路を開始すべしと語られたりと之れ則ち民長問題の交換條項の一なるべしと仁川にて風說するものあり

●境警視の視察談(續き)

△義州の統軍亭 は日露戰役の際黑木將軍が戰況を視たる所にして茲に上れば九連城虎山より安東縣迄一眸の下に集り眺望頗る佳なり土地の阿媽唄ふて曰く「義州府で眺めのよいのが統軍亭向ふに見ゆるは九連城鴨綠江下るジャンクの帆さへ」と以て此の亭を想像すべし

△鴨江兩岸の相異 義州なる守備大隊長の談話中氏は曩に約三十里程鴨綠江の上流を探りしに江の西岸の狀況の甚しき相異に一驚を喫せりと即ち對岸淸國地は道路開け交通に便なるに拘らず韓國領は到底旅行し得べき道路なく上流の地に行かんとせば對岸に渡り上るを便とするを以て殊に家屋の如き對岸の建築の整へるに拘らず此方は例の豚小屋然たるもののみ而して韓人の優遊たる態度に反して淸人の東奔西走如何にも忙しげに活動せる[illegible]は何物も進歩を示し[illegible]し對岸に穀物を運ぶ韓人は此れを支那[illegible]に代へ歸り來りて江岸に酔眠を貪りつゝありと

△厄介なる私立學校 義州府尹は舊知の人なれば請ねて府尹事務の最も多忙なるものは何なるやを問ふ府尹の曰く地方行政事務の刷新を要し施設を施すべきもの多きが中に目下最も厄介千萬なるは私立學校なり義州一郡に學校と稱するもの三百餘あれども一として生徒を卒業せしめ得る迄經費を繼持すべしと認めらるゝものなく何れも流行を追ひて學校を設け解散軍隊の將校下士の如き敎育上何等の經驗なき者を傭ひ徒らに兵式体操を課するのみ中には敎育を名とし て地方民より寄附金を募集し甚しきは恐迫を加ふるものあり過日或面の如きは此等の似非敎育者人民にピストルを擬して學校費を强徵せし事あり彼等の辭に曰く我等國家の危を救ひ國權の恢復を圖るため學校を興し子弟を敎育す此の經費を負擔するは國民の義務なりと此等の取締りは余の最も苦心せる所なり云々」と

△東郷少佐の遺跡 日露役の初め露兵のために捕へられたる東鄕少佐の遺跡は官衙附の建物にして家は相當の設備あり當時の模樣など聞かばやと門を訪へば基督敎會堂の標札ありて關人勿入と記せり此の地方基督敎の盛んなるため公の建築物の多くは或は敎會のため又は學校のため基督敎徒のために占取せられあるものゝ如し途中東鄕少佐の捕へらるゝ際迄の一行に從ひ居りし韓人朴なるものに逢ふ彼は當時少佐の通譯なりし者にして當時の狀況を語り少佐の勇敢を稱し感慨に沈み居たり

●經濟上に及ぼせる暴徒の影響

暴徒の經濟上に及ぼせる影響の大なるは疑ふ可らざる事實なれども之に關する具體的の調査は統監府にても韓國政府にても未だ明瞭ならず地方に依りては其影響の程度著しき相違あり釜山の商勢範圍慶尙南道の如きは全く暴徒の影響なし同じ三南地方にても被害の多きは慶尙北道及忠淸道なり最も被害の少き元山商勢範圍と被害の大なる群山商勢圏内とに就て見れば左の如し

▲元山方面 暴徒の損害は多方面に亙り其の狀況複雜にて直接被害の外間接の損害は豫想外の巨額に達したるやも知れねど一言にして盡せば江原咸鏡地方は商業に輕くして漁業に重かりしが如し

▲商業上の影響 韓人若くは淸人の負褓商が内地の各開市場を徘徊する上に於て支障を來したるため多少輸入品販路の阻碍となり從つて輸出品の幾部も一時は澁滯せしも全局に於ては江原道は不常船舶の便なく又陸產物に乏しき地なると咸鏡道は甲山及び惠山鎭を中心として其の附近の不穩に止まりし[illegible]成掛貸代金又は韓通貨金仕込金の回收[illegible]澁滯を生じ江原道漁業の仕込金回收を不可能に歸せしめたる一事は稍大なる影響と謂ふべし

▲貿易上の影響(輸出) 昨四十年の農作は平年作以下なりしならんには輸出の狀況は殆ど見るに忍びざる衰頽を見たらんも幸ひに大豆の輸出豫想外の大數に上り一見何等の影響なき形を呈せり但し暴徒の蜂起なかりしとせば端川地方大豆の如きは昨年十月以降恰も日本に於ける大豆市價の尤も騰貴せる時に方りて稍々回着し日韓人共に其の得る所大なりしや論なきも暴動のため其の商機を逸し漸く本年二月以降正に大豆市價の下落せる時に及んで蹖積せるもの一時に流出せるより彼我の被れる不利益甚だ少からず特に江原道沿岸の漁業にて無事に行はれんか鰮鯖其の他の魚類或は肥料として或は食料として多額の輸出あるべく牛皮砂金の輸出も亦見るべきものありしならん

(輸入)韓國貿易が常に輸入超過の狀態にあるは各港同一にて元山に於ては三十八年度二百四十六萬圓三十九年度百六十五萬圓の超過ありしもの昨四十年秋季に於ては俄然八萬九千餘圓の輸出超過を來せり是れ稀有の現象にて其の原因は暴徒蜂起のため内地行商が第一の顧客を有する鮮陋の地に來往するを恐れ又暴動地方の開市が平日の如く行はれず爲に當所小口の内地取引大に阻碍せられしに因る

●保安林編入に就て(續)

夫れ此如京城附近一体の森林は保安林となれり已に保安林となりし以上は之れが取締方は特に嚴密ならざるべからず然るに農商工部に在つて山林政の機關未だ完からず僅かに山林局あるのみにして諸般の取締上に就ては不充分なるを以てこれが保護取締を警視廳に委任し同廳に於て嚴重に保護する事となれり既に警視廳に於て取締に任ずる以上は京城附近の森林に於て盜伐其の他の罪を犯したるときは韓人に在ては森林法に據て處斷せらるべきは勿論なるも若し之れが日本人なるときは如何との又一疑問を生ずるに至る茲に於てか泥峴附近即ち南山を臺一体に居住をトする日本人の爲めに聊か研究するの必要なるを知る抑も日本人は韓國に於ては治外法權の地位に在るを以て若しも森林法違反の所爲あるときは如何なる法規に依て處分せらるゝか將た又全然處分せらるゝ事なきかは問ふ迄もなく一に理事廳の處分に屬し而して理事廳に於ける其法令の適用に於ては又一の疑問なりとす何を以てか疑問なりと云ふ即ち日本人は日本に於ける森林犯罪に就きては森林法により處せらるゝは勿論なるも韓國に於ける森林犯罪に就ては日本の森林法に據るか又は普通刑法に據るかにあり余は明かに日本刑法によりて處分せらるゝものにして森林法に據て處分せらるゝものにあらずと信ず何となれば日本の森林法は日本の林政上必要より生じたるものにして一種の單行法なるが故に韓國に於ける韓國森林法違反の所爲ありと雖も日本刑法に反せざる限りは更に制裁を加ふるの途なければなり然りと雖ども余は此論法を以て從に日本人の韓國森林法違反を奬勵するものにあらず否益々日本人の韓國森林法を尊重して啻で森林法違反の所爲なからん事を希望して止まざるなり殊に保安林に關する規定の如きは頗る高尙なる學理に胚胎するものにて思想の單純なる韓人に在ては[illegible]に對し其範を示すは蓋し日本人の[illegible]注意を怠はざる可からざるものあるを信す由來日本人は韓人に比して一層植物を愛し殊に樹木を好愛す現に日本人の居住地には盛に樹木を植栽し其傍に身を容るゝに足る住宅の人すら必らず松樅等の樹木を植栽し居るを目擊す樹木の植栽決して不可なるにあらず寧ろ美風と稱すべきも奈何せん其供給者が「ヨボ」なるに於ては大に一考を要するものなり余の目擊する處によれば「ナムサリヨー」と呼稱し「ヨボ」の徘徊するは日本人居住地に多きを知る果して然らば「ナム」需用者は專ら日本人にはあらざるか而して余の目擊する「ナム」なるものは決して人工植栽の樹木にあらず其松なる雜なる將又雜木なるとを問はず總て野生の樹木なり既に野生の樹木なる以上は之を何れに採取し來るか余は必らず京城附近なるを知る此觀察にして誤なからんか「ナムサリヨー」の原料は盡く這般保安林に編入せられたる漢城五部内の林地なるべしと信す已に此林地ならんか「ヨボ」の「ナムサリヨー」は盜に保安林の產物を竊取するものにして而して其需用者か專ら日本人なるに於ては日本人は即ち「ヨボ」の手を以て盜に森林法違犯をなしつゝあると一般の結果を生ずる所に至る之れ余の大に考へものなりと云ふ所以なり

●大韓協會通常總會 大韓協會は本日午后一時より中部塔洞なる同會事務所内に通常總會を開く

●基金募集委員會 東京早稻田大學第三期擴張基本金募集委員は昨日午後六時より天眞樓に於て委員會を開き基本金募集に就て協議したり

●仁川喞筒委員會 昨日午後七時より民團役所樓上に於て民團喞筒置場委員會を開きたる筈

●吊旗寄贈 郡金三郎氏逝去の事は別項に記載の如くなるが仁川民團及商業會議所にては吊旗三流及吊詞を贈呈する筈なりと

●鈴木中牟田兩技師の出張 鈴木中牟田兩農商工部技師は往復三週間の豫定にて昨日出發平北雲山に出張せり

●佐々木三郎氏 歸朝中の同氏は家族と共に昨日無事歸京せられたり

●韓官任免 一昨日左の通り叙位免官の件裁可ありたり

陞從一品　正二品　尹德榮
正二品　徐[illegible]輔
依願免本官　法部書記官　崔[illegible]鎭

●郡金三郎氏逝去 仁川開拓者として成功したる郡金三郎氏は六十三才を一期として遂に昨日午前九時逝去されたり

公人私人

▲武田潤治(江景農工銀行支配人) 一昨夜入京山本旅館
▲横井太郎(日本安全油會社取締役) 同上
▲岡田嘉平(ヒーリング商會理事) 同上天眞樓
▲小野是一郎(統監府技師) 同上巴城館
▲片山貞松(同上) 同上
▲北田孝一(同上) 同上
▲中村嘉太郎(同上) 同上
▲澁谷善作(韓國興業銀行取締役) 同上
▲東條源太郎(馬山郵便局長) 一昨日歸任

●近事片々

▲太皇 帝嚴妃の日本觀光說は[illegible]る例に依り風說に止るか將た事實となるや
▲伊藤 公歸任の上御下問ぜられて決定せ[illegible]
▲伊藤 公歸任の度毎に斯る風說洵く或は今回は現實にせらるべしと傳ふる者ある也と
▲併し 日本觀光は相互の爲に都合よかるべし日本國民は衷心之を希望するもの
▲伊公 の歸任は幾多の風說を生み出す會の如し
▲曾禰副統監更迭の如きも事實らしく傳說さる
▲帆山 兩系目下の形勢に就ては或は曾禰副統監の更迭も强ち風說との斷言し難き也
▲伊公 韓政客等の排日は其實日本主義なることを看破し其所置にあぐみ[illegible]
▲是を 鎮撫するには完用内閣を倒し[illegible]内閣組織をなす必要あり
▲現狀 にては以完用内閣を斥る能はず夫やと
▲然る 是や面倒にて實際韓國統治へ稀氣生ぜぬかと
▲然る、統監系の祭酒等に痛く反撥したる結果若返りて韓國組織に熱心し來れりと
▲以上 の說事實とせば今回歸任の上は或は此冬は京城にて越年せらるゝやも知れじ
▲一進 會長李容九東拓委員に進尾して東上せり其目的奈邊に有やと揣臆する者多し
▲李容 九の東上は東拓副總裁及理事に一進會員を撰任せしむる運動也と觀說す異舉
▲伊藤 統監は井侯の病院心元なさまゝ今に興津に在其宿所にて統監事務を執居ると
▲古谷 秘書の差出す書類を一々檢閲して處に指揮して電報を打たしむ職分多忙なりと
▲統監 內地に居るも一々指揮傳令せざれば止まずと曾禰副統監は全く留守居役也と
▲桂內 閣は化粧品に課稅すべしとは好き思付可成贅澤品には此際重稅を課するもよし
▲貴婦 人ハイカラ男等のポケツトに課稅して渠等の驕奢稅を徴發するは至當也とす
▲桂內 閣は人氣取り內閣の稱を得んとす太郎侯爵余り利口に立廻り却て反動來らん
▲後藤 男の入閣加藤大使菊地總長大藏延期財政整理皆人氣取り也とは餘りに酷評也
▲例令 人氣取りにても善事は善事也[illegible]貪むるは貪むる者の却て狹隘を示すもの也
▲東京 日日新聞は加藤高明氏の大使となりたる爲に賣却せらるべし讓の手に落る乎
▲主筆 本多雪堂は大阪朝日に舞戻るべしとの噂あり或は左もあらん後主筆は誰人ぞ

京城居留民團公文

京城居留民團告示第二十八號
明治三十九年京城居留民團規則第十八號京城居留民團立京城尋常高等小學校規則中左ノ通改正ノ件理事官ノ認可ヲ得タリ
明治四十一年九月十一日
京城居留民團民長　熊谷頼太郎
京城居留民團立京城尋常高等小學校管理規則トアルヲ京城居留民團立各學校管理規則ニ、第一條中小學校トアルヲ各學校ニ改ム



水の流れ（一）

み登り生

……くソレに場所柄に似合はず内氣の性質にて身の嗜みも流石は小楽屋の仕附丈ありて少しも怒ましき所なく加へて讀み書き裁縫も一應の婦どしては何所へ出しても恥しくなく近所のものより『つぎちやんは感心な娘さんよ温順なしいた方よ』と賞めそやさるゝにつけても母は心より嬉しく從つて繼娘とは知りつゝも世間の人は『れ嫁に／＼』と母に諂ひるものも數少なからざりき

●妻女の縊死

▲肺患を苦に病みて

原籍大分縣東國東郡朝在村當西署蓬萊町字桃山に居住する人夫諸富多次郎の妻女ケサヨ（三十）は去る十日午後十時頃夫の不在を幸とし……

●ヨボ兵と邦人の喧嘩

南大門外尾張屋邦岐爲之助方寄宿永田辰次郎は去る十日午後九時頃南部會員坊銅洞三十一統五戸酒幕金容錫方に至り滐て懇意を爲し居る韓人二名と酒を飲み居りしが……中々に止む模様なく已むなく美洞憲兵分遣所に其の旨を申告せしに同分遣所にては管轄が違ふから大貞洞派出所に申告せられよと命じたりしも二人の補助員は大貞洞派出所には赴かず再び件の酒幕に至りしにハヤ其の時は喧嘩は已……

……妬を起したるものと見へ妓生に向つて戯談を云ひたれば妾の一行も酒に醉ひ居ることゝて二言三言罵り返したるに彼て車馬監を身にかけ居る昌奎は大に怒り此に端なくも大立廻りを初め遂に昌奎は顔植等の爲め散々に撲り飛ばされたり斯る所に訴へに依り警官出張し取押へんとしたる昌奎と顔植を除く外妓生も共に何れへか逃げ去りたれば一先づ兩名を銅峴分署に引致し目下取調べ中なり

●自轉車で衝飛す

本町二丁目二十二番戸土木受負業藤澤新一郎（廿七）は一昨日午後二時半頃自轉車に乘り学洞を疾駆する際大山林洞居住朴姓女（六十）を衝倒し腰部に負傷せしめたる騷ぎに發官出張し一應銅峴分署に連行し取調べの末傷は至つて輕微なりしかば五十錢の膏藥代と車代十錢にて事濟みたり

診療に從事す

理事廳前角

統監府通信管理局囑託醫學得業士前漢城病院内科主任

池田季雄

池田内科小兒科醫院

●雪子と菊野連理の柵

……新町山遊樓の……生存競……絶間なき浮世の外の浮世なる新町山遊樓の欄に咒れ物憂しげに往來雲の通ひ路の跡を眺めては深き思ひに沈む妓女あり年はまだ二八か二九からぬ花も之より盛りといふ頃なるも病みあがりの面影に後れ毛の二筋三筋頬に亂れし其姿は如何に血のなき男とて惱殺せられずには濟むまじと危む人もありとかや扨ても此妓女源氏名を雪子と呼び同楼切つての流行妓なりとか生れは唯だ九州福岡とのみにて他は聞き漏らせしが幼なき頃は何不足なき家庭に蝶よ花よと育ま……

●飯代八ケ月

京仁線梧柳洞居住土木業清瀬龍造（三十）と云ふ男は金と云ふ住所不定の韓人と本年一月頃より南大門通り一丁目水閣橋飲食店金允河方にて飯の掛食ひをなしつゝありたるが今日まで只の一度も入金なしたる事なく其嵩積んで最早四圓以上に達したれば允河方にては痛く迷惑なし……

……うたりするを間もなくこゝに現れ出でたる雙子の某でこれもどうやら終不足な顔付をしてたつ子が立つてゐるとは知らぬらしいさて此方たつ子はそれと見るよりコレ貴殿は薄情な妾し如き者の罪を盗むとはエヽマ聞エませぬ哩なアモ餘まりな事をと計りに泣きすがらんとするを車夫は稍々面赤らめて袖打ち振り俺れが知つた事かと云ひ捨て藥屋へ引込みたれば後に殘りたるたつ子は今は早や取りつく島も泣く／＼もと來た道へと引返したるがさて此方亭主なる禿頭爺いたのなんので朝つぱらから飛出では此りや必定車夫と駈落ちの幕開きならんと途中までたつ子の後追つかけて警察署へそれと訴へ出ようか如何したものかと思案に立ちくれてゐる處へたつ子は恥も有ろうに本町二丁目を大聲揚げて泣いて來るより禿頭の亭主はコリヤテモ不思議だな扨ては駈落ちではなかつたかと胸なで下し其の理けをと問へば右の次第と明りヤレ／＼

……懐がれんと種々なる趣向を凝らして待ち構へたる甲斐もなく無慘や一昨日の午前中より空一面白雲を以て蔽ひ午後に至るに從ひ雲は益々密になり南山の巓より灰色したる雲さへ現はれ今にも雨とならんかと疑はれしも七時頃に至り雲は稍や切れて薄くなり東の山の端に月光の微に見へしのみなりしも十一時頃雲間より一寸面を出したるのみにて夫より後は深く雲の中に姿を隱して現はれざりしも和城臺や奬忠壇附近は觀月の客仲々に多く何れもビールや酒を傾けながら雲間の月光を望むも又た趣味ありなど稱して風流を氣取るものも少からざりしが分けて新町の裏手の松山にては三味線入りにて大浮れに浮かれし俗物も頗る多かりし

●……後八時より鎌田開教師の說教あり

●南山本願寺說教　本日は土曜日に付午後八時より例の如く說教あり

●龍山の腸窒扶斯　龍山鐵道管理局官舎第十五號本島豐三郎方桐西重平（三）は去る九日腸窒扶斯の診定を受け大韓醫院に收容されたり

●暴風警報　風强かるべし低氣壓は朝鮮南部にありて七百五十ミリメートルを示す北部に進まんとす韓國全部を警戒す他の低氣壓は清國北部にありて七百五十五ミリメートルを示す（十一日午前八時三十分仁川觀測所發）

●天氣豫報（自十一日午後六時至十二日午後六時）

北又は東の風雨

十一日午前六時各地氣象概况

今朝低氣壓は韓國南部及清國北部にありて共に七百五十五粍と示し前者は北東に進まんとするを以て全國概ね東風吹き曇天にして龍岩浦に降雨せり



講談 富本半平の身上(三)

傘々御大將御出馬といふ段になりましたかねぞうですか姐さん如何も濟みませんが夫れぢやア御苦勞さまでもれ願ひ申しましよう然し其間一人ポッチで待つてるといふのも氣が利きませんから前さんの目がねで誰か相手を一人聘んでつて下さいナと如何で金は出來はしまいと見縊しをつけたので斯なりやヤケだといふ氣味で圖々しく持ち掛けて見るとハア宜いともサ讚岐といはぬより前さんの知つてる藝妓をれ聘びなさいナと如何にも捌けた挨拶なんです酒を飲でダラシが無い樣な者の氣心はスキッとした女でした

[illegible]

を出し難で此土地で目星をつけて置た藝妓を聘けて貰い思ひを叶へた上で口を布いて居樣といふ狂言を書きました夫れが美ん事グレハマになつちまつたお斷は餘儀に渉りますから預りとしてサクもの〻三時間も經つて日の離れ方に黑が竹敷に歸つて參りましたが如何もれ待ち遠さまでしたチといつて手前の前に頼み込んだ丈のれ金を並べア、隨分諸所を驅けずり廻つて來たんで何だか氣が落ちつかないドレ一杯思つぎに……と立てつけ四五杯といふものを水でも飲む樣にあをりつけました染々有り難い氣やア難いかといつて止めるのを餘り我家をあけましたからといふんで其家を出てソワ／＼と濱町までやつて參りましたが前を通つて寄らないのも義理が惡いと松月といふ待合に顏を出したのがそも／＼手前も手落ちでイヤハヤぎやふんといふ目に遇はされましたれ斷は是からが油がのつて參ります松月へ寄ると女將が居てれや珍らしい今夜は如何して濱町の方へと相變らずれ世辭が宜いナーニちつとばかり馬鹿を盡したので夫れで手……と手前は笑いながら上り込み長火鉢を中にして今迄のイキサツ大略話した上チー女將ソンナ工合なもんだから猶ど未練が殘つてならない此處は一番俺を助けると思つてれ前さんが中に這入つて甘く說き付小冬にウンと言はせて下さる譯にや往くまいが……イヽエサちやらつぽこの咄ぢや無い全く眞劍なんだから……ともみ手をしながら一生懸命になつて頼み込むと女將は暫時首をかしげて長煙管を玩弄にして居ましたがそうチ小冬はあれでナカ／＼もんだから鳥渡料理がしにくいが……夫れ程までにれ前さんが思ひ込んで居るものを無にして仕舞うのも何だか罪な樣な氣もするから何といふかマア聘んで見て妾から宜く當つて見て上げ樣さ如何にも賴母しい挨拶なので如何か一ど骨折つて下さい此の思ひが叶へば俺も浮み上りますから手……と直ぐに二階に上つて小冬の來るのを待つてとに致しました

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ケ月前金卅五錢 ▲三ケ月金壹圓 ▲六ケ月前金貳圓 ▲郵税一ケ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西大門通 電話六六三番